市民読書サポーターだより

みしのたくかにと

No. 280 2025. 2. 1

【発行】
富士宮市教育委員会
社会教育課
☎ 0544-22-1186

『大人のためのおはなし会』2024年度③

日　時　2月14日(金)10:00～12:00
場　所　西公民館 集会室

小学校や中学校で子どもたちに語っているおはなしを大人の方にも楽しんでいただきたいと思い、お話会を開きます。肉声で語られる世界各国の昔話や創作の物語をゆったりとお楽しみください。

市民読書サポーターのいる日程　2月

市立中央図書館 (10~12時)	1日（土）	8日（土）
	15日（土）	22日（土）

＊2月の「**絵本とわらべうたの会**」はお休みです＊

おはなし、とにかくたのしみ

おはなしは、語るのも聞くのも楽しいものです。

語るには、まず、一言一句覚えます。次に、覚えた文字を言葉として、動きが見えてイメージができるように何度も語ってみます。それから初めて人の前で語りますが、それでおはなしが仕上がったわけではありません。おはなしは、聞き手と語り手が一緒に作り上げて、初めて‘生きたおはなし’になります。語り手は、聞き手がイメージしているもの、見ているものを感じながら語ります。一緒におはなしを楽しむことで‘おはなし’は深まっていきます。良い聞き手に恵まれるたびに‘おはなし’は面白く、味わい深くなっていきます。

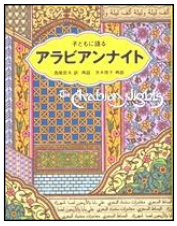
聞き手になるのも楽しいことです。今の時代の規範や常識から離れて、語られる言葉だけを頼りに、「むかし、あるところ」へ行って帰ってきます。そして、おはなしは語り手の生き様や価値観によって、また声の質（硬質な声、柔らかな声、太い声、細い声）によっても、違うものが見えてきます。ああ、この‘おはなし’は、こんな所も面白かったのか、こんな深みがあったのか、とドキドキすることもあります。

生きることは、たやすいことではありません。様々な苦労や挫折があります。けれども、昔の人は、それに屈することなく、物語を紡ぎだし語り続けることによって、明日への希望を生み出してきました。物語を語り聞くことで、昔の人が語り継いできた、力強く生きる力や希望やユーモアが、体験として私たちの心に染み入っていくのではないでしょうか。子どもたち、むろん大人も、物語を味わうことを通して、先人たちから生きる力をもらっているのだと思います。

そんな‘おはなし’を、一人でも多くの子どもたちと一緒に楽しんでいけたら、と願っています。そして子どもたちの内に物語を楽しむ力が育ち、やがて物語の本へと手を伸ばしてくれたら本当に嬉しいことです。

（市民読書サポーター　志村悦子）

おすすめの本の紹介（小学校中学年以上）



子どもに語るアラビアンナイト

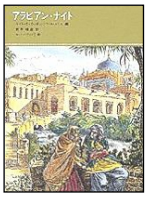
西尾哲夫　訳・再話
茨木啓子　再話
こぐま社

原典はアラビアやペルシャの人々が語りついできた物語。8世紀から16世紀にかけて260話余りが「千一夜物語」としてまとめられた。

『子どもに語るアラビアンナイト』（こぐま社）は、ペルシャの若い妃シェヘラザードが千日もの間毎夜語りつづけたという話の中から、「空とぶじゅうたん」「漁師と魔人」「船乗りシンドバードの冒険」など10話が収められている。子どもたちが耳から楽しめるよう、アラブ研究者とお話の語り手が協力して、原作の面白さを生かしつつ簡潔に再話してあり、親子でも楽しめる。華やかな彩りの装丁も魅力的で、巻末に解説もある。

アラビアン・ナイト

ケイト・D・ウィギン／ノラ・A・スミス　編
坂井晴彦　訳
福音館書店



高学年以上には、『アラビアン・ナイト』（福音館書店・古典シリーズ）を勧めたい。こちらも格調を保ちながらもわかりやすい訳文と、異文化の香り高いみごとな挿し絵で、物語の世界を細部まで楽しめる。

＊裏面もご覧ください＊